

## はじめに

米国ロサンゼルスやニューヨークなどの大都市部では、ラティーノたちが圧倒的な存在感をもっている。まず、人口が多い。たとえば、読者のあなたが日本を出発して、ロサンゼルスの空港に着いたとしよう。飛行機を降りて、入国審査官のところまで歩いていく間に会う人びと、空港内で入国審査に向かうまでの道を案内してくれる人、その途中に見かけられる空港内あちらこちらのショップで働く人や清掃員、そして、入国審査官、荷物受取場の係員まですべてラティーノである確率は非常に高い。入国した後も、空港から乗ったタクシーやバスの運転手、ホテルに到着してからは、荷物を運んでくれる人、フロント係、コンシェルジュ、ルームサービス係、レストランの給仕、調理師など、あなたが接する人すべてがラティーノということも珍しいことではない。あなたには英語で話しかけるだろうが、同じ仕事仲間とはスペイン語で話しているだろう。

日本にいても、あなたは知らないうちに、ラティーノとつながりをもっている。たとえば、あなたがよく行くスーパーマーケットがそうである。手に取る米国産のレタス、ブドウ、オレンジ、精肉などは、ラティーノの労働力によってもたらされたものである。米国のあらゆる農畜産物の生産や収穫、パッキングの工程に彼らは関わっている。私たちは、日常生活のなかでラティーノの恩恵を得ている。

米国のポップカルチャーに興味のある人ならば、ジェニファー・ロペス、クリスティーナ・アギレラ、ピットブル、ベニチオ・デル・トロといった俳優や歌手などを通して、あるいは、日本の都市部を中心に人気のあるサルサ、バチャータ、メレンゲなどの音楽やダンスを通して、ラティーノや彼らの文化に興味をもっている人もいるだろう。

今や米国社会を理解するには、最大のマイノリティ集団であるラティーノ

について知ることは必須である。

本書では、基本的に、ラティーノおよびヒスパニックという語を「メキシコ、中米、カリブ海地域、南米のスペイン語圏から来た人びと、およびその子孫」という定義で使う。2つの語は、地域や人によって、そのどちらかがより好まれている。たとえば、メキシコ系は、「ラティーノ」と自らを言い表す傾向があるのに対して、ニューヨーク市のドミニカ系やプエルトリコ系の間では、「ヒスパニック」の語が好まれて使われる。こうした違いには、集団の歴史的・文化的背景が大きく関わっている。今後、米国政府は「ラティーノ」を広く採用していくと発表しているが、現在のところ、政府や関連機関の統計や報告には、「ヒスパニック」が使用される傾向が強い。一方で、文化や社会について言及するような資料では、「ラティーノ文化」「ラティーノ社会」といった表現が「ヒスパニック」よりも頻繁に使われている。本書においては、第1章では両方、その他の章では、基本的に「ラティーノ」を使用する。

第1章では、ラティーノの概論、第2章以下は、2013年時点での集団の人口の大きさの順に章を構成した。したがって、第2章メキシコ系、第3章プエルトリコ系、第4章サルバドル系、第5章キューバ系、第6章ドミニカ系となっている。どの集団も人口が増え続けているため、圧倒的大多数のメキシコ系以外の順に関しては、数年後、変わることも大いに考えられる。

ラティーノを理解しようとするとき、バリオに注目しなくてはならない。バリオは、スペイン語で「居住区」という意味であるが、ラティーノたちにとっては「かけがえのない〈ホーム〉」、外部者にとっては「危ない場所」とされることが多い。主流社会における非白人系に対する差別が深刻だった時代、ラティーノ移民やその子孫が居住できる場所は限られていた。バリオは唯一、彼らが自分たちの価値観で生きていられる場所であり、米国での避難所であった。そして、やがてそこから主流社会に抵抗する運動が興り、米国での経験をもとに新しい文化が創造されていった。

本書は、ラティーノについて知りたいと思った大学生や一般の方がたに向けて書いたものである。できるだけシンプルに、予備知識がない人にもわかりやすく書くことに努めたつもりである。読んでいただいた後で、ラティーノについて、米国社会について、少しでも理解できたと感じていただけたなら、大変嬉しく思う。

2014年3月

三吉 美加



米国のラティーン

---

目次

はじめに	1
地図（北アメリカ・中央アメリカ）	9
凡例	10
<b>第1章 米国のラティーノ</b>	<b>11</b>
1 米国のラティーノ	11
2 ラティーノとは？ ヒスパニックとは？	18
3 ラティーノ/ヒスパニック全体にみる特徴	22
4 ラティーノ/ヒスパニックのアイデンティティ	23
5 移民法とラティーノ/ヒスパニック	25
6 反移民と反バイリンガル教育の動き	29
<b>第2章 メキシコ系</b>	<b>38</b>
1 はじめに	38
2 米国とメキシコの歴史的背景	40
3 北への移動	42
4 大規模な移住	44
5 メキシコ系アメリカ人のアイデンティティ	48
6 イーストロサンゼルスとズートスーツ暴動	50
7 チカーノ運動	53
8 米国文化に根付くメキシコ系文化	56
<b>[コラム1]</b> ユカタンからカリフォルニアへ —ある田舎町からの移民の歴史—	渡辺 暁 61
<b>[コラム2]</b> メキシコ人移民ナイマとの対話から学んだこと .....二瓶マリ子	65

第3章 プエルトリコ系 .....	69
1 はじめに .....	69
2 米西戦争以降のプエルトリコの動乱と社会 .....	70
3 大陸部への移住の歴史 .....	73
4 ニューヨークのバリオ .....	79
5 ニューヨークのジェントリフィケーション .....	81
6 ニューヨリカンたちの文化活動 .....	83
【コラム3】 日本のなかのラティーノ文化 .....	三吉美加 89
第4章 サルバドル系 .....	94
1 はじめに .....	94
2 エルサルバドルの先住民 .....	97
3 エルサルバドルの内戦 .....	98
4 米国の対応 .....	100
5 サルバドル系の集団的特徴 .....	102
6 サルバドル系のコミュニティ .....	104
7 米国への移住 .....	108
8 変化する家族関係 .....	113
【コラム4】 メキシコ系ネイティブ・アメリカン？ —マヤ語を話す移民たち— .....	渡辺 暁 119
第5章 キューバ系 .....	121
1 はじめに .....	121
2 キューバにおける米国の台頭 .....	122
3 近くて遠いキューバとの関係 .....	125
4 キューバからの移住 .....	127
5 マイアミのキューバ系 .....	133
6 米国社会への影響 .....	137
【コラム5】 日本に生きるラテンアメリカの人びと .....	丸山由紀 143

第6章	ドミニカ系	146
1	はじめに	146
2	米国への移住	149
3	移住の背景	152
4	トランスナショナル	154
5	ワシントンハイツ	157
6	ドミニカンヨーク	161
7	ドミニカ系の人種観	163
	 [コラム6] ヒップホップとレゲトンがつなぐラティーノ若者の関係 .....三吉美加	 167
	おわりに	170